



—— 人みな師なり —— のコーナー

よく、お寺の門の左右に仁王像が立っていることがあります。厳しい目つきでこちらを睨みつける形相に、門をくぐる前に思わず背筋がしゃきんとしてしまいます。

実はテクアにも仁王像が存在します。朝の時間やあいさつなどに厳しい田中仁王と、道具の扱いや作業の仕方に厳しい長谷川仁王です。新人さんがテクアの門をくぐる前にしっかりにらみを効かせて待ち受けている為でしょうか。なぜかうちに来るアルバイトの人はみな、節度ある礼儀正しい人ばかりです。

このお二人は実はテクアが初めて新聞広告で人の募集をした時の、一人目の面接者と二人目の面接者なのです。信じられますか？この偶然。まるで神様が私に、

「存分に戦ってきなさい！！」

と言って天から送って下さった軍師みたいでしょう？哲学者の森信三先生の言葉に『人間は一生のうちに会うべき人には必ず逢える。一瞬早すぎず、一瞬遅すぎない時に。』という名言があります。この言葉を思うとき、田中さんと長谷川さんの顔を思い出して、いつも「そうだなあ」とつくづく納得してしまいます。そしてそれゆえに、いつまでもどっしりと落ち着いて、テクアの安全作業ににらみを効かせている厳しい仁王像であってほしいという思いも強く、田中さんと長谷川さんには高い理想をついつい要求してしまうのです。（わかって下さいね）

あれれ、もうお一人大切なお方を忘れていました。お寺の門を出るとよくおいしいお茶屋さん近くにありますか。お汁粉と大福のおいしい茶店。店主はたいていコロコロした体型で、お人好しでメガネをかけている。テクアにもそんな茶店の店主がいます。そう、いわずとしれたタクシマさんです。タクちゃんがテクアの門をくぐるたび、あの厳しい仁王達が必ずニヤニヤ笑い出します。

福の神ならぬ<大福の神>だと思っています。（くれぐれも食べすぎに御注意を！！）

『厳しさの中にも和気あいあいとした社風』これがテクアです。
3人の師に守られている私は今、本当に幸せをかみしめています。

【羽原 篤史】

